**2期:国立台湾大学医学部付属病院　腫瘤科/放射線腫瘤科**

**台北にある国立台湾大学(National Taiwan University, NTU)のOncology departmentで実習を行った。「留学といえばアメリカ」というイメージが強い中で台湾を選んだ理由としては、アメリカでの実習には非常に高い英語力が要求されると考えて躊躇されたこと、独学で中国語を勉強していたのでコミュニケーションを楽しめると考えたことなどいくつかある。また、Oncology departmentを選んだのは、東大病院には「血液腫瘍内科」は存在しているがsolid cancerを扱う科がなく、どのような科なのか見学してみたかったからである。**

**欧米への留学と比べると手続きは非常にシンプルで、新たにワクチン接種をしたりする必要はなかった。現地では大学の寮を用意していただけた(約20000台湾ドル/月)ので、そこに滞在する留学生が多かったように思う。自分以外にも、慈恵や阪大から来た日本人学生もいた。他にもアメリカやオーストラリア、セルビア、ドイツ、タイ、シンガポールなどから留学生が来ていたが、中華系の移民の子孫が多かった。滞在中は、contact persons(exchange studentのお世話係)と呼ばれるNTUの医学部生がついてくれて、空港までの送り迎えをしてくれたり、平日は夕食、週末は1泊2日の観光に連れて行ってくれたりと非常に親切だった。**

**台湾の医学部は7年制であり、5年生はjunior clerk、6年生はsenior clerk、7年生はinternと訳される。卒後は、男子の場合兵役が1年あるが、その後、PGY(post graduated yearとして1年勤めた後、内科・外科といった大まかな進路を決め、residentとして勤務する。その後subspecialty(腎臓内科・循環器内科など)を決めて、2～3年のfellowを勤め、専門医としての肩書を得られる。その後は大学の関連病院で数年間のトレーニングを受けた後、大学に戻ったりそのまま市中で働いたりするとのことであった。**

**カルテについては、電子カルテで統一されており、ほとんど英語で記入されていた。Admission noteの生活歴の欄にはalcoholやsmokingの他にBetel nuts(檳榔)がroutineとして書かれていた。檳榔とは、ヤシ科の植物で、東南アジアなどではその種子が嗜好品となっているが、喉頭がんをはじめとして発がんリスクが報告されている。実際、腫瘤科に頭頚部癌で入院されていた患者さんはBetel nutsを長年嗜好された方ばかりであった。**

**最初の3週間は腫瘤医学科で実習した。実習の流れは、日本とほぼ同じであった。学生はconferenceに参加したり、担当患者を受け持って、chief residentとともに病歴の聴取から身体診察まで行い、admission noteを英語で作成し、夕カンファで発表したりしていた。最初はその様子を見学していたが、最終週には英語でadmission noteを書く練習もさせていただいた。末期がんの患者さんの治療が主軸ということもあり、DNRの方も多くいらっしゃった。水金の朝はGrand roundに参加し、木曜は毎週台湾在住のアメリカ人を招いて英語でのプレゼンの練習やカルテの書き方の授業があったので、それに参加していた。火曜と木曜の午後には、学生による担当患者のCase Reportがあった。東大病院でいう諮問のような形式で、学生はPPTを用いて、患者の主訴から治療方針までを発表していた。発表内容に関しては適宜先生から質問が投げかけられるので、非常に勉強になった。腫瘤科では、お昼にほぼ毎日PGYやresidentのためのlectureが開催されており、学生も参加することができた。中国語で行われることも多かったが、Power Pointはすべて英語で書かれていたので、理解の助けになった。見学した手技内容としては、ommaya reservoirを介したCNSへの抗がん剤投与や胸腔穿刺、腰椎穿刺、中心静脈カテーテルの挿入などである。**

**また、最終週は放射線腫瘤科で実習した。学生は1人ずつPediatric cancer, GI cancerなどのグループに分けられ、自分はbreast cancerのチームに配属された。シミュレーションや治療の様子を見学させていただいた。また、外来も見学した。午前中の2時間程度で20～30人の患者さんのfollow upを行っていた。1週間という短い間であったが、患者さんを2人担当して、case reportを英語で書くという経験もさせていただいた。**

**この実習を行うにあたり準備を手伝っていただいた国際交流室の名西先生、現地でお世話になった腫瘤科の先生方、留学生活をより楽しいものにしてくれたNTUの学生などたくさんの方々にお世話になって無事に終えることができた。この場を借りて感謝の意を申し上げるとともに、少しでも多くの後輩たちがこの感想文を読んで台湾での実習に興味をもってもらえたら幸いである。**